



おはようロスアンゼルス

倫理研究所U. S. A. 南カリフォルニア倫理の会

9月号会報

2202 W. Artesia Blvd. Unit L Torrance, CA 90504

Fax: (310) 323-6737

2014年(平成26年) 9月1日(月)

NO. 157

二世週祭に参加

倫理の会は二世週祭の二つの行事に参加しました。

一つは「LA七夕祭り」一つは盆踊りです。

第六回LA七夕祭りに参加は六月に橋会長から提案が出され、皆の賛同の下、飯田さん、前田さん、梅本さん、氏家さん、与那覇さんらが小東京の七夕飾りの講習会に行つて、作り方を習い、材料をもらつてきてくださったものです。七夕トートほどにもなる、飾りを、デザイン、色、文字の配置など会員がアイデアを出し合い、朝の集いの後、皆で作りました。六日間かかりましたが紫、白、黄、緑のとても上品な「りんり」のくす玉ができました。

全米日系博物館の通りに総出品数一五〇個が飾つてありますが、素敵です。

盆踊りは尾崎勝宏普及部長の発案です。踊りの練習は朝の集いの後、ボランティアの大石さんが来て教えて下さいました。全部で九曲です。十七日(日)午後四時から小東京でにぎやかに踊つて来ました。

伝統ある二世週祭の行事に倫理USAも参加してお祭りを

盛り上げることが出来ました。地域密着行事を楽しく実践できました。

最後に、七夕も盆踊りも滝川さんの「書」のお手伝いに感謝します。参加されたみなさん、お疲れさま、ありがとうございました。



(写真 矢崎由起子さん)

七夕飾り即行の実践

七夕飾りはトーレンスの倫理オフィスで作られました。七夕祭りの会場の小東京へ運ばなければなりません。

百五十個の参加飾りが一度に運ばれては困るので、飾りの責任者から運ぶ日にち指定の連絡が来るはずでした。

それが待っても待っても連絡が来ないので、

それに気づいた橋会長が責任者に電話をしたら、今日の午後六時が締め切りだということです。大勢なので倫理にも既に連絡をしたと勘違いしていらしたようです。

橋会長から尾崎さんに、尾崎さんから前田さんと飯田さんに、しかし頼みの飯田さんに連絡がつかず、留守電にメッセージを残し、前田さんが「自分が行く」と七夕飾りを車に積んで飛び出しました。

フリーウエーに乗る手前でハンドバッグを倫理オフィスに忘れて来たことに気づき、引き返したところで、留守電を聞いた飯田さんと会うことが出来、二人で小東京へ無事届けることが出来ました。

気づきを即行実践した皆さんのおかげです。ありがとうございました。

歩調を合わせる

夫婦で北海道へ旅行に出かけたM氏。二泊三日の過密なスケジュールです。

妻の歩くスピードが遅く、観光スポットを効率よく回れません。M氏は心の中で、妻に対して苛立ちを覚えていました。

その日の夕食時、M氏は妻にこう告げられました。「あなたの歩くスピードが早すぎて、ついて行くのがやつと。せつかくの旅行なのに、ちつとも楽しめない。ゆっくり景色を眺めたり、楽しくおしゃべりしながら歩きたいのよ」

数日後、M氏は、職場で指示したとおりの仕事ができない部下の姿に、ハッとしました。家庭に限らず、職場でも「なぜこんな簡単な仕事ができないのか」と、部下を責めていたことに気づいたからです。

相手と歩調を合わせることは、その人の生き方や考え方に歩調を合わせることにつながります。そこから良好な人間関係を築くことができます。

人間関係の要点を知ったM氏は、その後、家庭でも相手に合わせるよう心がけて、周囲の人から頼られる人物へと成長したのです。

今日の心がけ

相手と歩調を合わせましょう

『職場の教養』八月二十

九日)

おめでとうございます

『しきなみ』八月号

群螢集（西東京・海外）

三席 門園美枝子

来し方より短き未来思いつつ追儼（ついな）の豆を一つ一つかむ（追儼↓節分）

入選 ホン史子

夕方は雨の予報に屋根職の夫は早々仕事に向かう

真砂集（西東京・海外）

入選 摺木洋子

エンデバー何十回と大気圏にその身を焦がし地球へ帰る

『秋津書道』八月号

競書

入選 草野律子 一般部（東京）行書

入選 前田グレース 一般部（々）々

五席 竹内康子 一般部（東京）楷書

入選 高田弓子 々 々

入選 高橋ひとみ 々 々



5席 竹内 康子

南カリフォルニア 竹内康子

矢口裕司先生ご出張日程

九月五日（金）午後六時三十分〜九時

倫理ビジネスネットワーク・勉強会

九月六日（土）午前十時〜十二時

秋津書道会・指導

九月六日（土）午後一時三十分〜三時

しきなみ短歌会・指導

九月七日（日）午前八時半〜九時半

辞令交付式

九月七日（日）午前十時半〜十一時半

朝の集い

講話 矢口裕司専任研究員

九月七日（日）午後一時〜

懇親会（門園美枝子理事宅）



歌集『あめりか』は、しきなみ会員の心温まる短歌が掲載されています。一冊三ドルです。郵送が必要な場合は送料込みで五ドルです。草野短歌チーフまで。

しきなみ短歌

待ちにまち月下美人の咲く深夜吐息聞ゆる

き花びら

松永典子

忙しい間をぬか床かき混ぜて空気と塩と愛情

漬け込む

草野律子

息を止め筆で綴りぬ子等の詠（うた）一瞬にしてあの日に帰る 摺木洋子

真夏日にとなりに住みたるくろねこは地面に張り付きアメーバとなる 松元依子

学校を終えてこれ以後一人立ち孫の将来輝け明るく 滝川歌子

早朝を開花うるわし野生朝顔桃色一色に心うばわる 奥本洋子

道の辺の巢より落ちたる鴉のひな親をさがすか声限り鳴く 杉野和子

よみがえる白鷺城の天守閣まぶしく輝く帰郷の胸に 長谷川公子

ピカッピカッと合図をおくって飛行機は北斗七星くぐりて進む 塩出笑子

さ庭辺の紫立ちたる朝顔はにっこり笑って我を励ます 伊澤潤子

他人よりも自分を変える切り換えのスイッチ探して楽しい職場 飯田隆

「オウオウ」と手を振りはしゃぐパーカーの目は新たなものに興味津々 梅本豊造

手際よく姑の衣服を着替えさせその上夫は下の世話まで 梅本和子

言い合えばきず深みゆくばかりにと冷めたコーヒーぐうと飲み込む 門園美枝子

顔中に汗滴らせ精悍な目がボール追うワールドカップ ホン史子

日本語の学校いくのつらすぎるだけどいつかはためになるかな 松元倫江

あの頃はこの坂長いと思つてた七つの吾に戻れる武蔵野 矢口裕司